

# 開門求め 農水省交渉

## 大臣・副大臣出席拒否！

### 大臣・副大臣に情報伝 わっていないおそれ？

六月二日、よみがえれ！有明海訴訟原告団は、全国公害被害者総行動の一環として、農水省と直接交渉を行った。交渉には有明海沿岸漁民・支援者・弁護士・研究者が出席したが、農水省側は、総行動実行委員会の再三の要請にもかかわらず、農水大臣・副大臣の出席はなかった。

交渉の冒頭、原告団は、交渉の場に大臣・副大臣の出席がないことの理由を追及した。これに対して、農水省は、通常、要請は事務方が判断する事になっていると一般論を繰り返し、大臣副大臣の出席の必要はないと回答した。

数度にわたる農水省との交渉において、開門拒否の理由に合理性がないことが明らかにになり、開門に向けた政治決断が求められているところ、農水省は、あえて決定権のない担当者だけ

を出席させることで、政治決定を回避しようとしている。原告団は、出席した農水省の担当者に対して「あなたたちに今日この場で開門の判断ができるのか」と迫った。これに対し、農水省担当者は、四年前から繰り返し述べてきた開門できないとの結論を繰り返すのみで、原告団からは、四年間一歩も変化がないと非難の声が上がった。

## 民主・共産議員出席

交渉には、民主党から大串博志衆議院議員、日本共産党から穀田恵二国対委員長、仁比聡平参議院議員が交渉に参加した。

大串議員は、こちらからは、具体的にこうすれば開門できるということを繰り返し提案しているのではないかと議論はほとんど集束していて、大臣発言が待たれるだけじゃないか。何でこの場には出てこないのか。今が

## 有明漁民・自殺二〇名以上

政治決断が必要な時だということは大いに入っているのかと迫った。これに対して、農水省担当者は、大臣副大臣は出席できないと「思う」と述べ、大臣・副大臣ではなく自分の部下である課長補佐の指示を仰ぐと言いつつ始末で、実際には諫早湾潮受堤防の開門をめぐるこれまでの議論について、大臣や副大臣に報告しておらず情報が伝わっていない疑いが濃厚となった。



諫早干拓による漁業不振の影響によって有明海沿岸で二〇名を超える漁業者が自殺している(特に開門しないとの大臣発言以降顕著)にもかかわらず、四年前の大臣発言を繰り返す農水省に対して、仁比議員は、「廃業を決意した、自殺に追い込まれた漁民たちを冒瀆するものだ」と厳しく非難した。

## 二百人農水省抗議

この交渉と同時並行で、農水省前では、全国の公害被害者約二〇〇名が開門を求め集会を行った。

## 代替水源検討せず

チェック議員の会が求めていた調整地に代わる代替水源の検討を農水省が行っていないことが明らかになり、議員の要請すら無視する農水省の姿勢に非難が集中した。

